

土浦平和の会

ニュース NO・26 1996年3月

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 31-9122

沖縄と連帯を強めよう !



桜咲く冬の沖縄、平和の旅から

土浦平和の会理事・県平和
委員会副会長 山口 雪雄

1・15沖縄連帯集会には間に合わなかったが、平和運動の猛者たちと一緒に18日から1週間「桜咲く冬の沖縄、歴史と文化、平和の旅」をした。連日二十度を超す暖かさで、長袖のシャツ一枚でも暑いくらい。桃の花のような美しい名護の寒緋桜「厂かんひざくら」または「厂かんざくら」は、ちょうど山一面に咲き誇り、ひととき沖縄のきびしい現実を忘れさせてくれるようだった。

沖縄は今度で三回目であるが、今回ほど安保のくびきにあえぐ沖縄を実感したことはなかった。ガラビ壕など沖縄戦の跡をたどり、ソウの檻や嘉手納基地などの米軍基地があるき、サトウキビ、芭蕉布や歌と踊りなどの文化産業にふれても、わずか一週間ではどれも不十分であるが、どこでも、日米安保条約、日米地位協定の重圧とその影に突き当たった。日本で唯一の亜熱帯である沖縄の青い空と珊瑚礁のリーフに砕ける青い海は素晴らしい。東洋のガラパゴスと呼ばれる自然の宝庫でもあるが、この沖縄に、戦争が終わって半世紀経つというのに、米軍は暴力的な土地接収で居座り続け、75パーセントもの基地を置いている。基地の中に沖縄があると言われる現実を再認識する平和の旅であった。現地でも聞いて唖然としたことだが、本土からきたある著名な二人の歴史学者は、沖縄が初めてだったということに象徴されるように、われわれは沖縄をあまりにも知らなすぎる。

「太田知事と県民の命を懸けた闘いを私たちは見殺しにするわけにいかない・・・。」と、京都では「核も基地もない平和な沖縄をつくる会」を結成し、続いてこの平和の旅に参加した東京と近郊の仲間が、二月十二日に同様の主旨で会を結成した。ぜひみなさまのご協力をお願いします。

沖縄を理解するための参考書

平和のためのガイドブック 沖縄
自然・島々、歴史・文化、戦跡・基地
沖縄歴教協編 あげぼの出版社

総会までに 5名のなかまをむかえよう!

いま県平和委員会は5月の大会に向けて1割のなかまづくりを目標に取り組んでいます。土浦平和の会は6名以上のなかまづくりをめざしますが、当面4月の総会までに5名のなかまをむかえて、念願の60名で3年目の総会を成功させたいと思います。平和の会は微力ながらも少しずつ成果をあげています。平和に対する思いは多くのなかまと語り、行動してこそ実現できます。周りの人たちに呼びかけて見ましょう。

行事ごよみ

- 2月11日 百里初午まつり(玉こんにやく模擬店出店)
- 2月16日 第10回理事会(1中地区公民館)
- 3月15日 第11回理事会(1中地区公民館)
- 3月24日 沖縄連帯県民集会(水戸市民会館 午後1時)
- 4月12日 第12回理事会(1中地区公民館)
- 4月13日 県理事会(石岡青少年会館)

